UCHIDA

ニュースリリース

報道関係者各位

2026 年 11 月 9 日

株式会社内田洋行

内田洋行、ハイブリッドワークの次を見据えた「UCHIDA FAIR 2027」を開催

～フレキシビリティをさらに深化させた「マルチブリッドを支えるワークプレイス」を提案～

株式会社内田洋行（本社：東京都中央区、社長：大久保 昇）は、オフィスファニチャーと ICT の総合新製品発表会「UCHIDA FAIR 2027」を、新川本社および新川第二オフィスにて 2026 年 11 月 10 日（火）から 11 月 13 日（金）まで開催いたします。





ハイブリッドの、その先へ。
フレキシブルでリアルな空間がもたらす人の熱量、デジタルがもたらす柔軟性と俊敏性と、
そこに AI や最先端テクノロジーの無限の可能性が加わる。

多様な価値が多次元に融合する次世代型ワークプレイス。それが Multi-Brid（マルチ-ブリッド）です。
私たちが目指すのは、単に「出社とリモート」を切り替えるための場所ではありません。ハイブリッドを超え、働く一人ひとりのポテンシャルをマルチ（多様・多次元）に引き出すイノベーションの起点。フレキシビリティがもたらす、境界のない新たな働き方が、ここから始まります。

出社回帰がスタンダードに戻る現在、オフィスは改めて「人が集まる理由」を問われる場となりました。これからのオフィスは、単に人が働く場所ではなく、「出社したからこそ、会いたい人に会え、組織を越えた新たなつながりが生まれる」場所です。生成 AI の時代だからこそ、多様な人々が顔を合わせ、知恵や発想を交わし、重要な意思決定や新たな価値を生み出す場として、オフィスの重要性が一層高まっています。

こうした変化に応える鍵となるのが「フレキシビリティ」です。目的や人数に応じてファニチャーを組み替え、リアルな空間を多目的に活用する。デジタルが人の所在や空間の利用状況を可視化し、働き方をフレキシブルにする。リアルとデジタルが、人、場所、時間、組織、情報、データなど、働くことを取り巻く多様な要素を、目的に応じて柔軟につなぎ直す役割を果たしてくれます。

「UCHIDA FAIR 2027」では、内田洋行は新たな協創の場を提案いたします。
それは、人と人、人と場所、そして人とデータがつながる「マルチブリッドを支えるワークプレイス」です。

フレキシビリティが広げる、オフィス空間の可能性

内田洋行は、長年にわたって設計段階からファニチャーの柔軟性を追求してきました。本年は、その成果として用途に応じて変更できるデスクシステム、人数や活動に合わせて多様な使い方ができるビッグテーブルなど、共通の構造や部材を活かした組み替えや拡張と、様々な ICT 機器の接続を容易にし、働く人の自由な活動を支え、空間の可能性を広げる多彩なファニチャー群を提案します。

■一人ひとりの最適な環境を提供するフレキシブルなファニチャーシステム

―固定席とフリーアドレス席を柔軟に対応できるデスクシステム「Arcena（アルセナ）」



2030 年を見据えて日本のオフィス環境は、限られた面積を最大限に活用しながら、多様化する働き方へ柔軟に対応する事が求められており、ファニチャーそのものにも、用途や人数に応じて構成を変えられる高い可変性が重要になります。「Arcena」は、フリーアドレス席で使用する際には、天板の区切りを意識せず、広い作業面を自由に使える一方、固定席として使用する際には、一人ひとりのニーズに合わせた機能の追加や変更が可能です。天板の増設や一部を取り外す「中抜き」、パーツの組み換えによりハイポジションや車いす利用への変更など、レイアウトに応じてデスクの構成を変更できます。フレキシビリティを追求し、将来の変化を見据えた柔軟なオフィスづくりを支えます。

―ひとつのテーブルから多様な働き方を生み出す、ビッグテーブルのフレキシビリティ

ビッグテーブルは、広い天板を自由に使い、一人で集中して考える、隣り合って相談する、複数人で情報を共有するなど、仕事の目的や人数に応じて使い方を柔軟に変える働き方の「テーブルワーク」をサポートします。ビッグテーブルを中心に、様々な形状や高さを組み合わせることでワークシーンが広がります。大きな天板面を様々な心地よい素材とカラーで彩る新たなオプションを用意し、「テーブルワーク」空間を演出します。

「COMMONS TABLE SYSTEM-i（コモンズ・テーブルシステム-アイ）」



人が自然に集い、交流が生まれる有機的な曲線を持つビッグテーブルです。オフセットした柱状の脚内に機器や配線を収納し、ビームにモニターを整然と取り付けることで、快適な ICT 環境を備えた情報交換やミーティングの場をつくります。ハイポジションタイプは、短時間の打ち合わせやアイデア共有にも対応。テーブルの形状や高さ、ICT 環境を組み合わせることで、多様な活動に柔軟に対応し、人と人のつながりや協働を促す空間を生み出します。

「LEMNA(レムナ)」



直線のビッグテーブルを支える軽やかな 4 本脚のスタイリッシュなロングテーブルです。強固なフレーム構造が大きな天板上で繰り広げられる様々な活動を受け止めます。今回、新たにキャスター付きテーブルのプロトタイプを開発しました。 動かして組み合わせることで、個人作業から少人数、チームでの協働まで、空間の使い方を柔軟に切り替えられます。本年は、曲線を持つ天板のオプションも用意しました。

―見晴らしの良いテーブルワークを支え、姿勢と設えを整えるワークチェア



Tamot Nest タイプ



Tamot Air タイプ



Alinel



ELMAR

見通しを保持しながら、テーブルワークを快適な姿勢で行うには、高いデザイン性とエルゴノミクス機能が両立したワークチェアが必要です。自由な姿勢をサポートするリクライニング機構をコンパクトに設計。機能美と造形美を両立させ、ビッグテーブルの空間に溶け込みます。

「Tamot」は、見晴らしの良い空間にマッチする控えめな背の高さと、包み込むようなシェル形状が特徴です。利用シーンに応じて2つのタイプから選ぶことができます。

「Alinel」は、A ラインのシルエットの大きな背もたれを高級感のある張地でくるみ、シックなワークシーンを演出します。可動アームレストはタイピング時の疲労を軽減します。

「ELMAR」は、一般的な木製椅子のような硬さを感じさせません。木の持つ自然のしなりに、リクライニング機構を組み合わせ、長時間にわたり快適に座ることができます。天然木のぬくもりを感じながら、仕事に集中できます。

■フレキシブルを支えるために深化を続ける関連製品

―大画面をもっと自由に、快適な作業環境を実現するビームとモニターアームシリーズ



ノート PC に大型モニターを接続する働き方が広がるなか、大型モニター対応を中心にモニターアームのラインナップを拡充します。デスクやテーブルのビームに取り付けることで天板面をすっきりと使え、モニターの位置や角度を前後、上下左右に自在に動かすことが可能となり、2 画面・3 画面を使った効率的な作業から、ワイドモニターを囲んでの共同作業まで、様々なシーンに対応します。

―場所を選ばず空間を創出し、ICT 機器にも柔軟に対応できるセミクローズボックス



「Co-at box」は、オフィス内の必要な場所に柔軟に設置できる置き型のセミクローズボックスです。ミーティングや集中作業、交流など、仕事の目的に応じたサイズの空間を創り出します。配線や大型モニター装着が容易に行える壁構造により、ICT 機器の装着や改修、交換も柔軟に行えます。また、吸音性能がある内装材は反響音を軽減し、オンラインミーティングの音声の質を高め、オフィスレイアウトとテクノロジーの変化を幅広く受け止める空間アイテムです。

―オフィスを自由に動き回るワーカーの持ち物や書類を安全に預かる収納システム



フリーアドレスのオフィスでは、個々のテリトリーであるパーソナルロッカーへのニーズが多様化しています。
パーソナルロッカーシステム「L-rage」は、利用者を固定するメンバー方式と、一時的に使用するビジター方式の双方に対応できるダイヤル錠を装備しています。オフィススペースや収納量に応じた幅広いニーズに応えるため、今回、新たに小容量モデルを発売します。



システム収納「ハイパーストレージ HS」シリーズは、豊富な鍵変換数や、デスクやワゴンとの共通鍵やマスターキーにも対応する「内筒交換錠システム」に加え、特許技術である解錠時に番号を崩して盗み見を防ぐ機能と、非常時の管理者鍵を備えた「ダイヤル錠」を用意し、複数人で暗証番号を共有するなど、用途や管理体制に応じた施錠方法を選択できます。本体モジュールが共通である「L-rage」と組み合わせて効率的に配置することができます。

■エンジニアやスペシャリストの高度な専門業務を支える、拡張性と快適性を追求したデスクシステム

―優れた機器収納力と配線機能をもつスタイリッシュでフレキシブルな D-MOLO



「D-MOLO」は、ビームを支える強固な脚部と天板、機器収納を基本とした拡張性の高い構造により、業務内容や ICT 機器の変化に合わせて柔軟に構成を変更できるオペレーションデスクシステムです。今回、モニターアームによる多画面ディスプレイの設置機能を強化し、限られたデスクスペースでも多数の情報を一覧できる環境づくりを提案します。大容量で整然とした配線スペースや、排熱・セキュリティに配慮した機器収納ボックスを備え、システムの更新や機器の増設など変化に柔軟に対応します。

UCHIDA

ニュースリリース

内田洋行 × Steelcase　理想のオフィスを共に創り上げる取り組み 「Co-Creation」オフィ

内田洋行は、米国 Steelcase 社と 32 年間にわたり、国内外の多様な働き方やオフィス空間の研究・実践を重ねてきました。一人ひとりの思いを形にしながら、理想のオフィスをお客様と共に創り上げる取り組み「Co-Creation」を展開しています。今回の展示では、オフィスへの導入が進むハイブリッドテーブル、個室ブースに加え、欧米で普及が進む、健康に配慮した電動昇降デスクを紹介します。働く人がその時々の目的や身体の状態に合わせて最適な環境を選び、自分らしく能力を発揮できる、これからのオフィスのあり方を紹介します。

■対面とオンラインを美しくつなぐ Ocular（オキュラー） Coupe5（クーペファイブ）



オンライン対話に特化してデザインされた、有機的なラインを持つテーブルシリーズ Ocular コレクション。会議に参加する人々の 3 つの視線（人から人へ、人から画面へ、人からカメラへ）を考慮して意図的に設計されています。カメラ越しにも参加者の顔が見えやすく、映像上で人物が重なりにくいレイアウトを促すことで、参加形態によるコミュニケーション格差を軽減し、円滑な情報共有と協働を支えます。

■ガラスの開放感と静寂をまとう、スタイリッシュな個室ブース



オープンなオフィスにマッチした、Web 会議や集中作業、機密性の高い会話など、周囲の音や視線を気にせず仕事に取り組める空間を創る「soundbox」は、オンライン会議の快適性を高める音響性能、照明、換気に配慮し、両面ガラスによる抜けの良いスタイリッシュな個室ブース。オフィス内の任意の場所に集中作業やミーティングに利用できるボックス空間を柔軟に設置することができます。

■世界ではスタンダードになりつつある電動昇降デスクで働く人の健康とウェルビーイングを支える

世界各国では長時間座り続ける働き方を見直し、電動昇降デスクの採用が進んでいます。日本でも座位と立位を自由に切り替え、仕事の内容や身体の状態に合わせて快適な姿勢を選べることが、重要な要素となりつつあります。「Co-Creation」の取り組みの中で、用途や価格帯に応じた電動昇降デスクの開発を進めてきました。最大 125kg の耐荷重性能により、複数のモニターや ICT 機器を使用するエンジニアや開発部門など、高度な専門業務にも対応できます。3 人が自然に視線を交わし、対話や発想を広げる 120°天板の「HAT Lite Co-Creation 120°」、天板の回転機能によって個人の集中作業から 4 人での協働へと柔軟に切り替えられる「HAT Lite Co-Creation Pivot」に、デザインやグレードの異なるパーツを組み合わせられるスクエア天板の「MigrationSE Collection」をラインアップに加え、電動昇降デスクのシリーズをさらに拡充しました。



HAT Lite 「Co-Creation 120°」



HAT Lite 「Co-Creation Pivot」



「MigrationSE Collection」

人と場所をつなぐ。働き方を進化させるオフィスデジタル基盤

■「人と場所をつなぐ仕組み」をより広く。SmartOfficeNavigator の進化



SmartOfficeNavigator は、ワーカーが働く場所を能動的に選ぶフリーアドレスを採用する、多くの大手企業で、不可欠な仕組みとなってきたオフィスでのナビゲーションシステムです。会いたい人の居場所や利用できる会議室を見つけ、部門や組織を越えたコミュニケーションを支援するとともに、人の活動や空間の利用状況をデータとして蓄積し、オフィス環境の改善に生かすことができます。

数多くの先進企業の導入実績をもとに、社員の居場所検索、滞在社員一覧、Microsoft Teams のプレゼンス表示、会議室・Web 会議ブースの検索・予約、チームメンバのアサイン、フロアの混雑状況の可視化など、働く場所の選択とコミュニケーションを支える機能を搭載しています。さらに、Microsoft 365 や各社の無線 LAN 環境、各種センサーとの連携により、人・空間・設備の情報を統合的に活用できる環境を整えています。

―蓄積したデータを、次のオフィス改善に活用

今回、管理者向けには、ライセンス管理や利用ログの出力機能を追加し、オフィスの利用状況の分析や継続的な運用改善を支援ができるように進化しています。SmartOfficeNavigator や SmartRooms に蓄積されたオフィスの利用状況やワーカーの行動情報をデータとして出力し、各種 BI ツールを使ってレポート化することができます。オフィスの利用実態を可視化し、データに基づくオフィス環境の改善や、より効果的な運用を支援します。



オフィスのエリア別稼働率や利用傾向を可視化する分析画面



座席ごとの利用頻度など詳細なヒートマップ



各フロアやエリアごとの利用状況や活用推移



会議室分析、稼働状況、組織やシチュエーション分析

―新機能　フリーアドレス席の座席利用を把握する AI 頭部検知モデル





AI 頭部検知モデルによる座席の在席検知と利用状況の可視化

フリーアドレスオフィスでは、空いている席を探しやすくすることと、オフィス運用の効率性を改善していくための実態の把握が重要です。新機能の「AI カメラ在席検知機能」は、360 度魚眼カメラと、オフィス環境向けに学習させた AI 頭部検知モデルを組み合わせ、従来の技術では把握が難しかった広範囲のオフィスの空席・在席状況を座席ごとに判定します。座席ごとにセンサーを設置したり、利用者に位置情報を発信するビーコンタグの携帯を求めたりすることなく、利用状況を効率的に可視化します。

検知結果は SmartOfficeNavigator と連携し、社員はパソコンやスマートフォンから空席状況を確認できます。また、管理者は蓄積されたデータから、エリアごとの利用率や時間帯別の混雑傾向を把握し、座席配置やスペース配分の見直しに活用できます。

―新機能　グループウェア連携ロッカーで非対面の荷物の受け渡しを支援



フリーアドレスオフィスの普及により、組織で共有する備品の貸し出しや配送物の受け渡しが新たな課題となっています。執務場所がわからず、共有備品や貴重品の配送物を直接渡せないために、デスク上に放置してしまうといった問題が生じがちです。グループウェア連携ロッカーは、スケジューラとの連携で共有備品の予約や貸し出しを一元的に管理し、社員証の認証連携による非対面での運用を実現します。また、庫内アンテナと IC タグによって返却される備品の数量や状態を検知し、必要な同梱物が不足している場合などに通知する機能を備えています。

※参考出品

―SmartOfficeNavigator 新たにクラウド対応版の出荷を開始

2027 年 1 月 20 日より提供を開始します。これまで多くの企業のオフィスで圧倒的に支持されてきた機能や運用ノウハウを標準化し、システム環境を統一して提供します。導入・運用プロセスの標準化により、従来半年以上を要していた導入期間を最短 3 か月程度に大幅短縮。大規模オフィスで培ってきた先進的な機能を、より多くの企業へ迅速に提供します。

■会議室・ブースの利用を高度化する SmartRooms の進化

国内 650 社・22,000 室強導入、国内トップシェアで信頼性の高い会議室運用システム **SmartRooms**。ブース利用やすぐに始める会議など、様々なシーンで利便性を高める機能を強化します。

―SmartRooms LED ライト連携により、ブースの利用状況をひと目で把握



ミーティングブースの上部などに設置した LED ライトを、SmartRooms の端末ステータスと連携させることで、会議室やブースの利用状況を視覚的に把握できます。壁やパーティションに遮られて中の様子が見えない場所や広いオフィスでも、LED の点灯状態で利用中かどうかをひと目で確認できます。

―SmartRooms「今すぐ利用」でも利用者情報が反映される



会議室の利用開始時に社員証をかざすことで社員を認証し、「今すぐ利用」の際にも予約者名を自動的に反映します。デスク端末に加え、部屋前端末にも対応することで、会議室からデスク・ブースまで、利用者の把握と管理を効率化し、精緻な運用マネジメントを支援します。

※Microsoft Exchange と Google Workspace に対応

―AV 制御ソフト codemari を大幅に刷新。会議室の運用管理機能を向上



会議室全体の現在の稼働状態を可視化

会議室の AV コントローラーシステムである「codemari（コデマリ）」の管理機能を強化し、会議室の安定運用を支えます。会議機器の稼働状況やネットワークの通信異常などの状態をクラウド上の管理画面から一元的に確認できる機能を加えました。これにより、管理者は会議機器のトラブルを事前に把握することが可能になります。また、併せて機器トラブル履歴や操作ログなどの利用履歴の可視化・分析機能を拡充しました。これらの蓄積データを活用し、次の会議室の整備計画やメンテナンス運用を支援します。

―今後の展開

SmartRooms と SmartOfficeNavigator は、人と人、人と場所をつなぎ、効率的で生産性の高い働き方の支援や、ワークプレイス運用の最適化を支えるオフィスのデジタル基盤として、今後、運用を統合し、進化させていきます。

UCHIDA FAIR2027 フレキシブルに働くワーカーのための様々なワークシーン

(1)本社 2F｜人が集い、つながりと創造が生まれるテーブルワークの空間



使う広さや座る場所を自由に選び、その時々の活動に合わせて自分らしく使えるビッグテーブル。個人の活動から人との交流までを緩やかにつなぎ、自然なコミュニケーションから新たな発想や創造を生み出します。ビッグテーブルを中心に、ワークチェアやラウンジソファを組み合わせ、上品でさわやかなカラーデザインとともに、多様でフレキシブルな働き方を体感いただけます。

(2)本社 B1F｜組織や活動の変化を柔軟に受け止め、仕事の効率と創造を支える空間



さまざまなデスク作業に合わせ、モニター環境や天板の高さなどを柔軟に変え、一人ひとりに適した働く環境をつくります。 必要な場所にはブース空間を構築し、ICT 機器の設置や入れ替えにも柔軟に対応。 組織や仕事、テクノロジーの変化を幅広く受け止め、効率的な仕事と新たな創造を支えます。フレキシブルで機能的な空間を、ソリッドで端正な印象のカラーで展示しています。

(3)第二7F｜人と人、人と場所をつなぎ、協創を促すオフィスのデジタル基盤



このフロアは、ビッグテーブルをスタイリッシュにレイアウトしたフリーアドレスオフィスです。座席の利用状況を独自の AI で検知して、空席を容易に見つけられます。また、高機能デスクの座席は専用端末から予約できます。人と人、人と場所のつながりを生むデジタル基盤が支えるフリーアドレスオフィスを、実際の活用シーンを通じてご体感いただけます。

(4)第二6F｜木を活かした心地よい場に人が集い、人と森、地域をつなぐオフィス



木のぬくもりや心地よさが人を集め、自然な交流を生み出します。そして、木を活かすことが森林資源の循環を促し、地域とのつながりを育みます。人にも環境にも心地よい、これからのオフィスの価値を生み出します。木質のオフィス空間を体感していただきながら、内田洋行の木との歴史や、木がどのように加工されていくのか、どのような使い方ができるのかをご覧いただきます。

(5)第二 4F｜Steelcase 社協業展示　働く人の活動から考える、新しいオフィスのかたち



お客様と共に働き方を観察・分析し、開発してきたコンセプト製品群「Co-Creation」をさらに進化させています。今回は電動昇降デスクを中心に、個人の集中作業からチームでの対話・協働まで、多様な活動に柔軟に対応するオフィス環境をご紹介します。働く人の活動を起点に、人と人、人と空間の新たなつながりを生み出す、これからのワークプレイスを提案します。

(6)第二 2F｜人と場のポテンシャルを最大限に活かす、これからのオフィスのデジタル基盤



オフィスのデジタル基盤は、「人」と「データ」をつなぎ、活動の効率化や、個人や組織のポテンシャルを活かす基盤を目指します。このフロアでは、最適な執務席を見つける SmartOfficeNavigator の新機能、AI による座席の頭部検知や、非対面での荷物の受け渡しを支援するグループウェア連携ロッカーをご覧いただきます。また、AI エージェントが支援する未来のマルチブリッド会議室など、研究中のプロダクト開発の展示をいたします。デジタル基盤のこれからとデータの活用事例についてご紹介します。ビル設備を統合管理する Smart Building Integration や AV 機器の運用管理を支援する codemari もご紹介します。あわせて、多台数の管理モニターや機器類を機能的に搭載できるオペレーションデスク D-MOLO の新モデルをご案内いたします。

■「UCHIDA FAIR 2027」開催概要 https://office.uchida.co.jp/ucdfair/

「UCHIDA FAIR 2027」 in 東京 2026 年 11 月 10 日(火)～11 月 13 日(金)
【開催場所】株式会社内田洋行新川本社オフィスおよび 新川第二オフィス 9:30～18:00
その後の福岡(11 月 18 日～20 日)、札幌(11 月 25 日～27 日)、大阪(12 月 2 日～4 日)会場はサイトをご覧ください。

※東京・大阪フェアは完全予約制となります。下記 UCHIDA FAIR 2027 までお問い合わせください。
※「Microsoft 365」は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
内田洋行は、マイクロソフト社のパートナープログラムにおける「Modern Work ソリューションパートナー」の認定を受けています。

【UCHIDA FAIR2027 お問い合わせ】
事務局(事業企画部) TEL:03-3555-4770 E-mail:ml-of-event@uchida.co.jp
【製品に関するお問い合わせ】
株式会社内田洋行 オフィス商品企画部 門元 英憲
【本リリースに関するお問い合わせ】
株式会社内田洋行 広報課 佐藤 将一郎・深澤 琴絵
TEL. 03(3555)4072 FAX. 03(3555)4620